

平成27年度 第64回冬休み良書推薦運動

読書感想文コンクール表彰式

平成28年3月5日(土)  
サンセール盛岡

主催 岩手県良書推進協議会  
協賛 岩手県学校生活協同組合  
後援 岩手県小学校長会  
岩手県学校図書館協議会  
岩手県PTA連合会

式次第

- 一 開式のことば
- 二 主催者あいさつ
- 三 賞状並びに記念品授与
- 四 審査報告
- 五 来賓祝辞
- 六 作品朗読  
久慈市立宇部小学校 1年 滝澤光来
- 七 感想発表  
洋野町立種市小学校 6年 畑中深聖
- 八 閉式のことば

審査員

作山静男先生	大石善弘先生	畠山明美先生	大渕奈実先生	小山文明先生	田代五月先生	近藤澄江先生	齋藤英明先生	藤村由美先生
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

平成27年度 第64回

冬休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

「は図書名

〈最優秀賞〉

ハナミズキのみちをよんで

「ハナミズキのみち」

久慈市立宇部小学校

一年 滝澤 光来

友だちがいつばいできてよかつたね

「こむぎのともだち」

宮古市立山口小学校

二年 船越 結衣

お母さん、おそるべし

「かあちゃん取扱説明書」

盛岡市立桜城小学校

三年 榎谷 航太郎

あたたかい場所

「魔女のこねこゴブリーノ」

宮古市立山口小学校

四年 神先 咲良

未来の私のために

「10代からの夢をかなえる感性の磨き方」

宮古市立田老第三小学校

五年 畠山 和

自分を変える

「ハッピーノート」

洋野町立種市小学校

六年 畑中 深聖

〈岩手県小学校長会長賞〉

ふしぎなひょうしき

「妖怪いじわるひょうしき」

盛岡市立桜城小学校

二年 上野 結雅

経験を活かして

「魔女のこねこゴブリーノ」

宮古市立山口小学校

四年 鈴木 和子

隠さない自分・隠せる自分

「ハッピーノート」

盛岡白百合学園小学校

五年 高橋 希

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

テリジノかあさんへ

「恐竜トリケラトプスとテリジノサウルス」

宮古市立田老第三小学校

一年 佐々木 凜太

幸せになるんだよ、ゴブリーノ

「魔女のこねこゴブリーノ」

宮古市立山口小学校

三年 佐々木 彩羽

長友選手から学んだこと

「長友佑都」

宮古市立田老第三小学校

六年 畠山 七之進

〈岩手県PTA連合会長賞〉

しあわせなハッピー

盛岡市立杜陵小学校

二年 藤田 莉穂

努力をすれば何でも叶う

宮古市立山口小学校

三年 小野寺 彩仁

大きな絵の中の小さな点

滝沢市立滝沢小学校

五年 前川 岳登

〈優秀賞〉

いのちをまもるハナミズキのみち

大船渡市立大船渡北小学校

一年 松村 れい

わたしのヒーロー

宮古市立山口小学校

二年 伊藤 優舞

信ねんをもってあきらめずにならねばならないこと

「魔法のレシピでスイーツ・フェアリー」

盛岡市立桜城小学校

三年 佐々木 円香

かあちゃん、やっぱりすこかった

紫波町立赤石小学校

四年 小割 佳音

聡子から学んだこと

陸前高田市立気仙小学校

五年 小泉 佳詩乃

自分の気持ち

大船渡市立日頃市小学校

六年 戸未来 琉

〈学校賞〉

宮古市立山口小学校

〈学級賞〉

宮古市立田老第三小学校

宮古市立田老第三小学校

宮古市立田老第三小学校

奥州市立大田代小学校

奥州市立大田代小学校

奥州市立大田代小学校

大船渡市立日頃市小学校

大船渡市立日頃市小学校

宮古市立山口小学校

一年

二年

三・四年

五・六年

一・二年

三・四年

五・六年

三年

六年

二年二組

## 〈入選〉

いのちをまもるハナミズキ

【ハナミズキのみち】

盛岡市立大新小学校 一年 貴志 ほのか

ひでくん、いつもどおりにね

【妖怪いじわるひょうしき】

奥州市立大田代小学校 一年 梅原 遼介

かなしみをのりこえて

【ハナミズキのみち】

奥州市立大田代小学校 二年 石川 愛

トリケラトプスとテリジノサウルスを読んで

【恐竜トリケラトプスとテリジノサウルス】

盛岡市立高松小学校 二年 林 竜之介

大親友の二人

【こむぎのともだち】

大船渡市立日頃市小学校 二年 佐藤 由柁

かあちゃんとお母さん

【かあちゃん取扱説明書】

滝沢市立鶴飼小学校 三年 赤坂 祐生

お母さん取あつかいできるのかな

【かあちゃん取扱説明書】

大船渡市立日頃市小学校 三年 近江 惺哉

すばらしいカンブリア紀

【ピカイア!】

盛岡市立山岸小学校 四年 吉原 颯祐

なりたいたい自分になれるように

【10代からの夢をかなえる感性の磨き方】

シンプルイズベスト

【10代からの夢をかなえる感性の磨き方】

宮古市立高浜小学校

五年 金澤 咲那

宮古市立崎山小学校 六年 攝待 開

## 〈佳作〉

おにいちゃんといもうとをよんで

【おにいちゃんといもうと】

北上市立南小学校 一年 高橋 咲千

ほんとうはななかよし

【おにいちゃんといもうと】

盛岡市立高松小学校 一年 小瀬川 ひより

こむぎちゃんへ

【こむぎのともだち】

岩手大学附属小学校 一年 佐々木 彩織

まけない ひでくん

【妖怪いじわるひょうしき】

大船渡市立日頃市小学校 二年 新沼 莉杏

いじわるひょうしき

【妖怪いじわるひょうしき】

宮古市立田老第三小学校 二年 佐々木 大吾

おにいちゃんといもうとを読んで

【おにいちゃんといもうと】

盛岡市立高松小学校 二年 泉田 琉成

きよ大なつめ テリジノサウルス

『恐竜トリケラトプスとテリジノサウルス』

一関市立南小学校 二年 佐々木 煌太

魔法のレシピでスイーツ・フェアリー

『魔法のレシピでスイーツ・フェアリー』

奥州市立大田代小学校 三年 遠藤 桃花

トリセツはいらない

『かあちゃん取扱説明書』

大船渡市立日頃市小学校 三年 紺野 真奈希

母ちゃんのトリセツ

『かあちゃん取扱説明書』

山田町立山田北小学校 三年 大川 星叶

ぼくのじまんのお母さん

『かあちゃん取扱説明書』

軽米町立晴山小学校 四年 古里 玲椋

ハッピーになるために：

『ハッピーノート』

平泉町立平泉小学校 五年 阿部 千咲

寿司の歴史を旅してみて

『すしのひみつ』

宮古市立田老第三小学校 五年 大手 彩華

一人一人「自分」をもって

『12歳』

花巻市立石鳥谷小学校 六年 佐藤 良香

ハナミズキのみちをよんで

久慈市立宇部小学校 一年

たきさわ きらら

わたしははじめ、この本は、うみのすなはまで、大すきなぞくやともだちとあそんだり、花火大かいをみたり、おとうさんにかた車してもらって、うみの七夕まつりを見にいったことがかいてあったので、たのしいえ本だなあとおもってよんでいました。でも、つぎのページを見たらしゅんかん、かなしくなっていました。つなみでいえや車やでんしんばしらやふねがながされて、めちやくちやになつていたからです。そのとき、先生に見せてもらった、ひがし日本大しんさいのしゃしんのことをおもいだして、そのことをかいている本なのだとおもいました。

しんさいがおこったとき、わたしは二さいでした。しんさいのことをおぼえていないので、おかあさんにきいてみました。わたしはそのとき、うみのちかくにあるおじいちゃんのうちにはいたそうです。おじいちゃんはりようしをしていて、ふねはぜんぶながされたそうです。ていでんになつたのでろうそくをつけたら、わたしがよろこんで、

「おたんじょうびおめでとー」

といつて、なんかいも火をふきけしたそうです。そのことでおじいちゃんたちのかなしいきもちが、すこしはげんきになつたそうです。そのことをきいて、小さかつたわたしでも、すこしはやくにたつていたんだなあとおもいました。

本の中のぼくはしんじやつたけど、おかあさんに、ぼくの大すきなハナミズキの木をうえてほしいとおねがいしました。ハナミズキの木になつて、まちの人をまもつてあげたいとおもつたからです。

わたしも、ぼくみたいにな、みんなをまもれる人になりたいです。そしていつか、ハナミズキのみちが、花でいっぱいになつてほしいです。

(図書名「ハナミズキのみち」)

〈講評〉

この本をよんで、光来さんは、震災の日のことをお母さんと話したり、おじいちゃんの気持ちを考えてたりすることができました。その気持ちはきつと、この本で「ぼく」がお母さんを思つたり、お母さんが「ぼく」を思つたりする気持ちと同じではないでしょうか。そして、光来さんも「ぼく」やお母さんと同じように、家族やみんなを守れる人になりたいと思つたのですね。光来さんの言葉に、勇気や優しさをいっぱいもらいました。

二年 最優秀賞

友だちがいっぱいできてよかったね

宮古市立山口小学校 二年

船越結衣

わたしには、友だちが十八人います。とてもやさしくて、おもしろくて、それにとてもゆかいな友だちです。

一年生のときに、はじめて、お友だちが五人できました。せきが近くになったり、いっしょにあそんだり、声をかけてもらったりして、お友だちになりました。

はじめてお友だちができて、とてもうれしかったのを、今でもおぼえています。だからこむぎちゃんも、はじめてのお友だちができて、うれしかったと思います。

わたしがこむぎちゃんだったら、お友だちとおわかれするのはとつてもかなしいので、とてもがっかりしてしまいます。こむぎちゃんも、とてもがっかりしたから、

「トンガリ山で冬ごもり。」

つてむすつとしたんだと思います。

わたしは、こむぎちゃんが春をまつ場めんが大すきです。がっかりしても、こたろうくんのために、春にお手紙を書くこうとするところがとてもやさしいと思ったからです。それに、こむぎちゃんがお手紙を書くのを、とてもたのしみに行っているのが分かったからです。だから、こむぎちゃんに、

「春になったらこたろうくんに、お手紙がとくといいね。

わたしもたのしみだよ。」

と、言つてあげたいです。」

春まではまだ時間があるけど、ちよつとさみしそうです。でも、こむぎちゃんには、色んなお友だちがいます。山口くんや、さのさん、ひとみちゃん、市田くんなんと、四人もいます。なので、こむぎちゃんは、さみしくなさそうです。だからこむぎちゃんに、

「友だちがいっぱいいるからだいじょうぶだよ。」

と、友だちも心の中でおうえんしていると思います。わたしも、友だちがいっぱいいるからだいじょうぶだよと言つてあげたいな。

(図書名『こむぎのともだち』)

〈講評〉

結衣さんは、この本を読みながら、こむぎちゃんの嬉しい気持ちやがっかりした気持ち、寂しい気持ちを一生懸命考えました。そして感想文の中で、こむぎちゃんをいっぱい励ましています。結衣さんは、お友達を大切にすることをききな人のだなあと感じました。

読書を通して本の中にも友達を作ることができる結衣さん。これからも、学校のお友達と元気に遊んだりたくさん読書をしたりして、お友達をいっぱい作ってってくださいね。



お母さん、おそるべし

盛岡市立桜城小学校 三年

榎谷 航太郎

ぼくは、いろいろな本がある中で、この題名にまずびっくりしました。「かあちゃん取扱書」。何だか、おもしろそうだな。だって、そんな取扱説明書があったらぼくのお母さんをうまくコントロールできるんじゃないか……。そう思ったからです。

この本に出てくるてつやのお母さんはガミガミうるさく、おこつてばかりいるお母さんです。てつやはお母さんをうまくあつかいたいと思い、「かあちゃん取扱説明書」を作っていく間にお母さんの気持ちがかかかっていくお話です。お母さんのあつかい方をマスターしたらおこづかいだって、おやつだって、ゲーム時間だって、てつやの思い通りになるんです。なんだか、ワクワクしてきます。

てつやが作った「使用方法」の中に、「お母さんにももらいたいことをあげています。その中で、『勉強勉強といわないでほしい』や『ゲームを好きなだけやりたい』や『部屋をかたづけなさいっていわないでほしい』などと思っているところがぼくににっています。ぼくのお母さんもてつやのお母さんみたいにすごくなるさいです。ぼくはもう少ししずかになんて思いたいのになと思います。ぼくだったら取扱説明書を作らないでお母さんにしてほしいことを手紙に書いてだまってわたします。その後のききめがあるか待っています。

てつやは取扱説明書を作るために、お母さんをよくかん察して作りました。そうしたところお母さんがおうちのことやお仕事でいつもいそがしそうにしていることが分かり、「早くしなさい」と言っている意味が分かったのです。ぼくのお母さんもお仕事をしている

のでいつもいそがしそうです。てつやのお母さんがいつも言っている「やるべきことが先、やりたいことはあと」ということが、何だかちよつと分かる気がしてきました。

この本の中の取扱説明書とは相手の気持ちになること、相手の立場になって行動することだと思いました。

この本のさい後に、「△けい告危険物につき取扱注意 か、かあちゃんおそるべし」そでお母さんに、みんなばれていることが分かりおもしろい本だなと思いました。もしかしたらぼくの気持ちもお母さんに見られているのかなと思つたら、すごくこわくなりました。宿題をやっていないのに、「宿題、やったの?」と言われて、「いやったよ。」と答えたとき、「今日、けんかしてこなかった?」と聞かれて、けんかしたのについて「けんかしてないよ。」と答えたとき。そして、暗い気もちで下を向いていたとき、「何かしたつ?」と聞かれたとき……。これからもきつと、ぼくが大人になつても、お母さんはぼくの心を読めるんじゃないかなと思います。

お母さん、おそるべし。

(図書名「かあちゃん取扱説明書」)

### 〈講評〉

感想文を読めば読むほど、お母さんの存在感がすばらしく浮かび上がってきます。お母さんという人は、子どもの心の中をしつかりとみているし、時にはみないふりをしながら様子をうかがっているのですね。このことに気づいていく航太郎さんのきんちよう感が、ぐんぐんと伝わってきます。「お母さん、さすがです。」と思わず声を上げたくくなりました。

題名と内容がうまくつながり、そして、最後までしっかりと言いたいことをおさえられた、読みごたえのある作品です。

## あたたかい場所

宮古市立山口小学校 四年

神 先 咲 良

ゴブリーノとスーチカは、血をわけた魔女ねこのきょうだいです。兄のゴブリーノは、「台所ねこ」に、妹のスーチカは、お母さんのような人間たちがこわがるほどの「魔女ねこ」になりたいと思っていました。この性格のちがいで二匹の人生があんなにも大きく変わるなんて、思いもしませんでした。

私は、ゴブリーノも魔女ねこをめざしてほしかったです。それは、人間と仲良くくらしただかと思うと、魔女ねこだと分かったとたん、とつぜん追い出されてしまうことがたくさんあったからです。家族とはなればなれになっただけでさみしい思いをしているのに、そんなことが続くのならば、スーチカと一緒に魔女の修行をして、魔法上手なねこになっただけが幸せだと思います。

一度だけ、ゴブリーノは魔女ねこであると呼ばれる前に、自分から人間の家を出ていったことがあります。町長さんの家にいたときのことです。おくさんがねこざらいだったため、ゴブリーノがいるだけで顔色が悪くなり病気になるそうだったからです。ようやく心地よい場所を見つけたと思ったのに、自分から出ていってしまったのです。人間思いのゴブリーノを強く感じた場面です。私は、そんなときこそ魔法を使うべきだと思います。私が考えた魔法は、まずはおくさんがもとどおりになる「元気の魔法」です。そしておくさんがねこのことを好きになる「ねこ好き魔法」です。そうすれば、魔女ねこであっても家を出ていくことはなかったと思います。

私には妹と弟がいます。今まで長い時間はなればなれになつたこ

とはなく、いつも三人で楽しく遊び、ときにはけんかすることが当たり前になっています。二匹のようにばらばらの生活をする事になつたら、私は妹たちのことが心配で、ゴブリーノのように自分の目標に向かうことなんてできません。

ゴブリーノとスーチカはそれぞれの目標に向かって、まったくちがった生活を送りました。二人はどんな思いで過ごしていたでしょう。ゴブリーノは「スーチカ、一人前の魔女ねこになるための修行を必死にしているんだらうなあ。一人前になつたかなあ。」しかしスーチカは久しぶりに再会したゴブリーノに冷たい態度をとつたりらんぼうな言葉を使つたりして、私には理解できませんでしたが、はなれていたときはきつとゴブリーノのことを毎日気にかけていたにちがいません。スーチカが最後に、ゴブリーノのことを「たしかに魔女ねことしては、できがわるいですけれど、しなせたくはありません。」と言つたとき、本当は兄のことを思う優しい心をもっていたのだと分かり、ホッとしました。

私のきょうだい困つたりつらい思いをしたりしているときは、私が姉としてしっかりと助け、安心できる場所を作つてあげたいです。

(図書名「魔女のこねこゴブリーノ」)

## 〈講評〉

自分がいけんしてきたことをよく思い出し、自分のこととくらべながら、たくさんの感想を書くことができています。スーチカのやさしさに気づいたのも、きつと、咲良さん自身が、日ごろ、妹さんや弟さんから安心かんをもらっているからです。

文しょう全体が、ゴブリーノとスーチカの兄妹の生き方で通されていて、まとまりのあるものになっています。咲良さんの姉としての考えも、しっかりと伝わってきました。

未来の私のために

宮古市立田老第三小学校

五年

島山和はたけやま のどか

作家、会社経営、高級ブランドの立ち上げ、アーチストとしてライブ、ディナーショーをする、これをたった一人の人がやっているなんて、とこの本を読みながら驚いてしまいました。その人はこの本の著者の佳川奈未さん。きつと奈未さんは小さい頃から何でもできて、習い事もいっぱいやってきて今があるんだろうと思いました。しかし、自分のことを「とりたてて優秀な人間ではない」と冒頭で言っています。私も佳川さんにちょっとでも近づけるようになりたいと思います。じっくりと読んでみました。

すると、私の心のアンテナに引っかけた言葉が「余裕のよっちゃん」にいる」ということです。初めは何なのだろうと戸惑いましたが、理由は簡単でした。人はリラックス状態にいるときにいつもの実力が出せるということです。私は野球のチームに入っていて、ピッチャーをやっています。いざ試合の時となると、失敗したらどうしようとか変な緊張とかしてしまい、コントロールが良くなくなったり冷静な判断が出来なかつたりし、試合結果に響くことがあります。つまり、私は本番という空気に飲まれてしまいリラックスできない状態にスイッチがはいってしまったからだと思います。

では、私が余裕のよっちゃんに近づくための方法は何なのか、この答えも書かれています。それは、「方法を考えすぎない」そして「パーフェクトを目指さない」の二つです。でも、なぜ、パーフェクトを目指してはいけないのかちょっと不思議に思いました。佳川さん曰く、そもそも完璧な人間なんていないし、完璧になろうとす

るならそれは神の領域。そして、自分が完璧でないことをこぼんだり否定しはじめると不幸が始まると。本当のパーフェクトとは、あるがままの自分で良いとすることだそう。この文を読んだとき、自分のことを言われた気がしてドキッとしました。これまでの私は、自分自身があるがままに受け入れていなかったということです。これまで等身大の自分でなく、大きく見せようとするところが「完璧にしたい」とする心だったんだと気付きました。自分の野球の場面に置き換えるなら、完璧なピッチングを目指し、かえって追い込まれて、何とかしなくちゃと焦りばかりが先行し、ますます緊張してうまくピッチングできなくなるというところ。終わりの一球まで絶対を外せない、やばいぞと自分を追い込むより、先ず一本しっかり投げようとする気持ちの方が大事だったんだと分かりました。

これから先、私は様々な場でプレッシャーや緊張に耐えなければならぬ時が多々、訪れると思います。そのとき、その二つを味方につけるためにも、自分の好きな部分もそうでない部分も「自分」として受け入れ、私自身が私を愛せるようになりたいと思います。

(図書名「10代からの夢をかなえる感性の磨き方」)

〈講評〉

「私の心のアンテナに引っかけた言葉が……」「等身大の自分」これらの言葉が読み手を引き付ける役目をしています。和さんの持っている表現方法です。

「私は本番という空気に飲まれてしまいリラックスできない状態にスイッチがはいってしまったからだ。」「何とかしなくちゃと焦りばかりが先行し、ますます緊張し……」

なるほどなるほど納得です。野球の頭脳のピッチングよろしく力強い筆力に感心しました。「私が余裕のよっちゃんに近づくために 方法を考えすぎない。パーフェクトを目指さない。」本当に楽しく読み終わりました。

自分を変える

洋野町立植市小学校 六年

畑 中 深 聖

私は、けんかが大嫌いだ。だが、ちよつとしたことでイライラして、相手に不機嫌の針を刺してしまふ。だから、よけいにけんかになる。そんな自分を、私はけんか以上に大嫌いだ。

主人公の聡子も、日頃のストレスでイライラがたまつて、両親に当たつてしまふ。私と同じだ。意味もないけんかをしてるとき、背中だつたら見れるのに、相手の目を見て話せない。嘘はスラスラ言えるのに、本当の素直な気持ちは言えない。物語を読んでいて、聡子に共感する気持ちは絶えなかつた。

私は最近、兄とけんかをした。二つの子の見たたいテレビ番組があつて、どっちを見るかという、たいしたことのない内容だつた。そんなうでもいいけんかは、大抵、私の不機嫌の針から始まる。

「なんで、そつちの都合に合わせなきゃいけないの？」  
わざとじゃないのに。こんなくだらないことで意地を張つて、気付いたら針を刺してしまつてゐる。それがどうしてか分からないから、相手にも自分にもイライラしてしまふ。後悔してしまふ。こういう気持ちは、誰もが持つてゐる気持ちなんだと思ふ。でもその壁を乗り越えて、聡子は成長して行く。どんなにつらい事があつても、どんなに八つ当たりしてしまつても、聡子は一歩ずつ前に進んでゐる。そこが唯一、同じとは言えない部分だと思ふ。そんな聡子を見てゐると、一人だけおいて行かれるみたいで、少し寂しい。

聡子は、頑張つてゐるお母さんを見て、自分も変わらうと思つたんだと思ふ。私も同じような気持ちになつたことがある。習い事の

後輩が成長したとき。人間関係を上手く築けなくておちこんだとき。大きな失敗をおかしてしまつたとき。そういうときに、「変わりたい」「頑張らなきゃ」とは思ふものの、なかなか変われなくて、自分の殻の中でもがき続けていた。でも、この本に出会つて、聡子に出会えて。私は、その殻を破る勇気ももつた。そして今度こそ、変わらうと、自分を好きにならうと、強く思ふ。今すぐには無理かもしれない。もしかすると、これからたくさんの人に、不機嫌の針を刺してしまふかもしれない。それでも聡子のように、ごめんなさいを言えたりだとか、相手の話も聞くだとか、一歩ずつでも、成長していければいい。

今年が中学生だ。もちろん不安がたくさんある。だが、聡子から学んだ事を生かして、自分を変えるチャンスにできればいいと思ふ。

聡子へ

たくさんの勇気をくれてありがとう。聡子はどんな困難にぶつかつて、それを種にしてどんどん成長して行くね。私も聡子を見習つて、自分と向き合い、変わるよう努力します。一緒に、がんばらう。

(図書名「ハッピーノート」)

〈講評〉

「不機嫌の針を刺してしまふ。」「不機嫌の針から始まる。」ユニークな表現です。「不機嫌な針からわざとじゃないのに……くだらないことで意地を張つて」表現の仕方が面白いからぐいぐい読んでしまいます。

「これからたくさんの人に、不機嫌な針を刺してしまふかもしれない……ごめんなさいを言えたり、相手の話も聞く……」

まとめが見事です。しっかりと考えた考え方がよく伝わってきました。

ふしぎなひょうしき

盛岡市立桜城小学校 二年

上野結雅

「ほうや、ずいぶんおいそぎのようだね。近道していきなよ」とつぜんひょうしきに声をかけられたら、ほくならきつとびつくりしてにげてしまいます。だって、ひょうしきがしゃべるなんて、ようかいのいるふしぎなせかいじゃないかぎりありえないから。

だけど、ひでくんはその近道をすすみます。さいしょこの本を読んだ時、ほくはひでくんの行どう力にかん心しました。

近道をすすむと、赤しんごうが顔を出したり、ひょうしきからヒョウがあらわれたり、めいろに入ったり、ひでくんが通る道につきつぎとじやまが入ります。なのに、ひでくんは前へとすすむので、ほくは早くもどつたらいいのになと思いました。しまいには地下室にとびこんでしまい、さいごにやつとみどり色に光る人にたすけてもらうことができました。でも、行どう力があっても、何も考えずにただ行どうするだけなのは、きけんだということが分かりました。

さい最後まで読んでみて、いつもほくがやっていることにごどこかにいてるとふとかんじました。ほくは時どきゲームを早くしたいために、しゅくだいをささつとおわらせたり、もんだいをよく読まないで答えを書いたりして、ケアレスミスをします。おかあさんにおこられてやりなおすと、じつくりやる時よりかえって時間がかかっていることがあります。いままでちゃんと考えたことがなかったけど、少し時間がかかっても、じつくりかくじつにやる方がけつきよく早くなるし、それが近道なんだと気づきました。きつといじわるなひょうしきたちも、ひでくんを教えたかったんじゃないかなあ、本当はやさしいひょうしきなんだろうと思いました。

ふしぎなひょうしきは本当の近道に気づかせてくれました。

（図書名「妖怪いじわるひょうしき」）

〈講評〉

会話を使った書き出し、ぐっと引きつけられました。

初めは「ひでくん」の行動力に感心した結雅さんでしたが、読んでいくうちに気持ちが変わっていききましたね。そして、急いでやるよりも、じっくりやるの方が大切だと気づくことができました。結雅さんもひでくんも、ふしぎな標識に教えてもらって、よかったですね。これからは、きつと、「じつくりいくよ。」と返事ができそうです。

経験を活かして

宮古市立山口小学校 四年

鈴木 和子

自分で飼ったペットを飼い続けることができず、ペットを捨ててしまう人が増えているというニュースを見たことがあります。主人公の魔女ねこ「ゴブリーノ」も、どこへ行っても最後は人間から見捨てられてしまうかわいそうなねこです。私は、ゴブリーノが旅をする中で、何も悪いことをしていないのに人間たちに誤解され続ける場面を読むにつれて、かわいそうすぎて見るにたえませんでした。しかも、どの場面も初めは人間と仲良くくらししていたのに、「魔女ねこ」であることがばれたとたん、何も悪いことをしていないゴブリーノの幸せなくらしがこわされてしまうのです。私がゴブリーノと出会ったら、絶対に追い出したりしません。

ゴブリーノの「だれかをよろこばせることほど、すてきなことはない。」という言葉に、私はドキッとしました。私はこう思ったことは一度もなかったからです。でも、問題をとけずになやんでいる友達に教えてあげて「分かったよ」と言ってくれたときや、独唱大会のピアノ伴奏をして独唱をした友達に感謝されたときがあります。今思うと、私が気付かないうちに、自分がしたこととで相手が喜んでくれていることがあったのかもしれない。

私はいつも人のことを考えて行動しているゴブリーノに、「すばらしい！」という言葉を送りたいです。またこんな思いやりのあるゴブリーノを追い出した人たちには、「ゴブリーノの気持ちも考えずに追出すのはひどい！」と言ってやりたいです。

ゴブリーノにはスーチカという本物の魔女ねこになりたがって

る姉がいます。スーチカが魔女ねこになるための修行を終え、ゴブリーノと再会したとき、スーチカが見ちがえるほど成長していたことにおどろきました。なぜ短期間で一人前の魔女ねこになったのでしょうか。それは「魔女ねこになりたい」という強い気持ちをもって努力し続けたからだと思います。ゴブリーノも立場がちがいますがすてきな家でだれからも愛される「台所ねこ」になれるようにさまざまな努力をしていました。私もお母さんに努力しないとかなわなくなるよ。」とよく言われます。授業の予習をする、一ページ多くがんばりノートに取り組むなど、今の私にできることを自分で見つけていきたいです。

ゴブリーノは念願の台所ねこになることができました。もしかかんに台所ねこになってしまったら、ふつうのねこのよさが分からないままだったと思います。苦労してつらい思いをし、その中でたくさんの人間とふれあう経験によって、今のゴブリーノがあるのだと思います。台所ねこを目指していたのに、本の題名を「魔女のこねこゴブリーノ」とした作者の思いは、きっと魔女ねこのまま台所ねこになる努力をして最後には本物の台所ねこになったからだと思います。

〔図書名「魔女のこねこゴブリーノ」〕

〈講評〉

段落と段落のつながりや、文と文とのつながりが上手です。ふだんから、つながぎ言葉を工夫したり、文末をいろいろためしつたりして文しよを作っているからでしょう。

本の題名がついた理由を考えると、もう一度、読み返すことにもなり、とてもよい作業ですね。和子さんの感想文から教わりました。

ゴブリーノと和子さん、立場は違いますがよりそうようにして読み進められましたね。

隠さない自分・隠せる自分

盛岡白百合学園小学校 五年

高橋 希

この物語で聡子達が過ごす毎日は、私の普段の生活とは大きく違います。友達同士でファストフード店へ行く事ありません。ゲームセンターだなんてとんでもありません。耳にピアスをした同級生や塾の先生が劇団員なんて想像もつきません。聡子達がうらやましいとは思いませんが、したい事をしている様に見える聡子達に対して、「自由だなあ」「大人だなあ」と感じました。でも、読んでいくうちに、友達との「人間関係」で、悩んだり、困ったりしたりしている聡子達と私は、同じ様な環境にいる事が判りました。

「ハッピーノート」という苦手科目克服の交換ノートを仲良く交わしている霧島君は、塾では目を合わせてくれません。聡子にはそれが不満です。その霧島君の本当の気持ちを知らず、リサと仲良くなり、リサと親しい富永先生と仲良くなり、富永先生と仲が良い霧島君グループに入るといふ遠回りでも面倒な計画を立てます。そんなへんてこな計画のせいで、つかなくてもいい嘘をつき、見栄や意地を張る事になりました。つまらない学校生活より塾での楽しい毎日を想像していたのに、自分自身でまた学校と同じ状況を作ってしまった。場所を変えてもだめな原因が、自分自身にあるという事にまだ気付きません。

ある日、お母さんが本当は好きではない仕事を精一杯・一生懸命務めている姿を目にします。自分で行動を起こして自分を変えたお母さんに聡子は何かを感じます。そして、霧島君も、リサも、富永先生も、お父さんもお母さんも、学校の友達も、全員が自分の本当の気持ちを隠していて、自分と同じ様に苦しんだり・悩んだりして

いる事、霧島君からの手紙の中の聡子は、演じていた自分だった事、次々と判り始めます。今までの自分を変えなければ全然だめなんだという事を、自分の周りの友達を通してやっと理解できたのです。

私は「学校」や「塾」に沢山の友達がいいます。リサの様にマイペースな友達もいるし、たぶん聡子の様に本当の自分を隠して、悩んでいる友達もいると思います。様々な友達と上手に接していくには、相手の気持ちや立場を考える必要があります。でも、まだ私は、それが得意ではありません。友達と上手に付き合うために、自分を隠さない方がよい場合も、隠した方がよい場合もあるでしょう。自分に正直なのも、嘘をつくのもどちらも大変なら、私は、自分に正直でいたいのです。でも、私の言葉が誤解され、友達も私も悲しい気持ちになった事がありました。友達とけんかになって、我慢して、反省して、それを何度もくり返していくうちに、自分の欠点を知り、相手を知る事ができると思います。私にとつての「学校」や「塾」は、知識や能力を高める場所ではなく、「人間関係」を学ぶ最高の場所だと思えます。今私に大事な「勉強」が何か、気付く事ができました。

（図書名「ハッピーノート」）

〈講評〉

主人公聡子の生活と比較して「大きく違うけれども、自由だなあ。大人だなあ。」自分の学校との素直な気持ちを読み取れます。更に自分を変えようとする姿勢もよいところです。様々な友達と上手に接するのが得意でない希さん。「自分に正直なのも嘘をつくのもどちらも大変なら、私は、自分に正直でいたいのです。」

素直な個性の強さを感じます。

「私にとつての学校や塾は、知識や能力を高める……人間関係を学ぶ最高の場所」

まとめ方も光ります。

テリジノかあさんへ

宮古市立田老第三小学校 一年

ささき りんた

七十センチもの大きなつめをもつきょうりゅう。これだけきいたら、きつとけんかはつよいんだろうなっておもった。その名まえはテリジノサウルス。テリジノって、大きなかまっていういみなんだって。なのに、木のみをたべるやさしいきょうりゅうだってきいてほくはちよつとびっくりしたよ。

そんなテリジノサウルスのかあさんは、大きなつめをつかって、子どもたちに木のみをたくさんとってあげていたんだね。三びきの子どもたちがむちゅうでたべるようすを見てほくもうれしくなったよ。そこに、肉しよききょうりゅうがあらわれて、子どもたちからさきにたべられてしまいそうになったときには、はらはらしたよ。でも、トリケラトプスたちがたすけにきてくれたし、なによりおどろいたのは、木のみとりにしかつかってなかった大きくてながいつめで、肉しよききょうりゅうをひっくりかえしてしまつたことだよ。

そのばめんをよんだとき、ほくはまえにおかあさんからきいたはなしをおもい出したよ。それはね、大しんさいの

とき、ほくのすむところにも大つなみがきて、おかあさんはほくたち二人をだっこして山に走つてにげてくれたんだ。そのとき、おかあさんのおなかには、おとうとがいたんだけど、ほくたちふたごのいのちをまもるためにがんばってくれたんだって。ほくのおかあさん、きつとひつしだったとおもうな。ほくたち、三つのいのちをまもろうといのちがけでやってくれたんだっておもうから。テリジノかあさんも、三びきのいのちをまもるために、ほんとうは木のみをとるためのつめだけど、てきをやつつけるためにつかつたんだね。心がつよいんだね。

ほくは、おかあさんってすごいなあとおもつたよ。こんどはほくがおかあさんをまもれるよう、学校でいろんな力がつくよう、がんばっていこうとおもっているよ。見ていてね。

（図書名『恐竜トリケラトプスとテリジノサウルス』）

〈講評〉

凜太さんが、この本をとて楽しんで読んだことがよく伝わってくる感想文でした。まず、テリジノサウルスという恐竜のことを知って、感動したところがいいですね。凜太さんは新しい事を楽しく学ぶ力があるのですね。そして、テリジノのお母さんの優しさや強さから、凜太さんのお母さんの事を考えたところ、とってもすてきなあと思いました。

お母さんが守ってくれた命、これからも大切にしていましょね。



幸せになるんだよ、ゴブリーノ

宮古市立山口小学校 三年

佐々木 彩羽

「ひどいっ、親なのに。」

魔女の家で、魔女ねこのゴブリーノは、親からぎゃくたいされ、妹からもばかにされます。とてもかわいそうで、なみだが出そうになりました。ゴブリーノは、どんな気持ちだったのでしょうか。

魔女ねこの子どもとして生まれたゴブリーノは、魔女ねこのあかしである真っ黒な体と緑の目ではありません。とてもかわいい、白い前足とピンクの足うら、そして、青い目の子ねこです。

おまけに、魔法を使って、悪さをしたとか、人間をふこうにしたいとか全せん思っています。ゴブリーノのねがいは台所で丸くなつてのどを鳴らすこと、人間のお母さんのひざにとび乗ってあまえることなのです。

私も、ゴブリーノの気持ちがよく分かります。あたたかい場所でのんびりすごすことが好きだからです。ゴブリーノは、自分の居場所がなくて、とてもかわいそうだなと思いました。

一生けん命、周りにとけこもうと努力しているゴブリーノはとても強いです。だから、子ども達に好かれているのです。

ゴブリーノは、いろいろなところに旅をしに行きます。その中でも、私は、みなしごの家の場面がとても大好きです。しゅうどう女がとてもやさしく、小さなみなしご達のことあたたかくむかえてくれたからです。

みなしご達も親がいません。ゴブリーノは、自分と同じだと思ひ、みなしごの幸せを考えているところがとてもやさしいです。

しかし、みなしごの家でのコックがとても意地悪で、子ども達も、ゴブリーノもかわいそうでした。どこの世界にも、弱い立場の人にも、意地悪な人はいるのだなと悲しくなりました。

でも、ゴブリーノは負けませんでした。みなしごたちのことを考え、その家をさつていくのです。小さな子ども達の幸せが、うれしくて、のどをごろごろさせて走つていくゴブリーノがとてもかわいいです。

最後に、心も体も完べきな魔女猫の妹スーチカが魔法を使って、ゴブリーノをすくい出す場面も大好きです。心からほっとします。スーチカは、「あんたは、はじさらしよ。」と言いながらも、ゴブリーノが殺される場所など見たくなかつたのでしょうか。魔女にさかちつたスーチカも、本当はやさしく、強いねこだつたことがよく分かりました。

ゴブリーノは、台所ねこになりました。人間の言葉を話す力や魔法の力はなくなつてしまいました。けれども、ゴブリーノは幸せです。今度こそ、自分の居場所を見つけたのですから。

この幸せが長く続きますようにとねがっています。今まで、つらい目にあつた分だけ幸せになつてほしいです。

（図書名「魔女のこねこゴブリーノ」）

### 〈講評〉

題名を読んで、彩羽さんがゴブリーノに共感して、あたたかい言葉かけられるくらい深い思いをもつたということが伝わりました。しかも、この題名は、感想文の最後の部分とびつたりと合つて、彩羽さんの書きたいことが強調されました。

本を読んで、なみだが出そうになつたことやがっかりしたこと、心からほつとしたことなど、すなおな気持ちで感じたことが、生き生きとあらわされた感想文です。

長友選手から学んだこと

宮古市立田老第三小学校 六年

島山 七之進  
はたけ やま かずのしん

サッカーの名門チーム、インテルに所属する長友。外国人選手の中に混じると頭一つ分ぐらい長友は小さい。そんな彼はサッカーに対する抜群のセンスとスタミナを発揮し、常にサイドバックとして控えている。こんな彼の事だから、きつと小さい頃からサッカーに關して順風満帆できたんだろうとほくは思っていた。この本を読むまでは。

長友には多くの試練がこれまでにあった。それは親の離婚、そして町で一番のサッカー選手だったからということで六年生で受けた愛媛フットボールクラブのジュニアユースの入団テストの結果は不合格。きつとほくなら親の離婚と聞いただけで心がめいってしまうし、入団する自信のあったチームから不合格通知がきたら、もうサッカーなんてどうでもいいと投げ出しそう。しかし、彼はそれをも心のバネとしていた。親の離婚に關しては、自分たちのために一生懸命働いてくれる母に対し、自分たちも一生懸命に勉強したり運動したりすることでその恩を返そうと努力した。また、不合格通知に關しても、その理由についてしっかりと向き合い「前もって準備することが重要だ」という結論を自分なりに得る。

他にも試練はある。大学生になってから椎間板ヘルニアになってしまう。治療法はじっくり休むか手術するか、いずれにしても時間はかかるし、治療の間は練習は出来ないことになる。長友はじっくり休む方を選んだが、ここでも彼はただ休むなんてことはしない。とにかく勉強に集中し、プロサッカーの契約が取れなくても就職で

きるよう備えていたというのだ。小学生の頃の「前もって準備」というところがここにも現れるなんて、ほくには想像もできないし、とても驚いた。

長友の「前もって準備」という姿勢は様々なところで彼のプロサッカー選手としての信用を積む基礎になっていると思う。例えば、椎間板ヘルニアに対しても、病状が出るようでは選手として使ってもらえない。だから体幹をきたえることで、ヘルニアを克服している。そうすることで毎日の練習もしつかりでき、本番の主力選手として使ってもらえる。また、先日も八月以来、試合に出ていなかった長友だが、十一月には試合に復帰した。それは控えた数ヶ月間、練習を続け、いつ試合に出されても大丈夫なよう調整をしてきた努力の結果だし、インテルの監督も試合に出続けていた選手より、長友の仕上がりが具合がいいことを見抜いたからだろう。

ほくは長友からとても大切なことを学んだ。前もって準備することの重要性だ。これをしておくことで、心構えもできる。体はもちろんだが心も準備できるのなら、本番でちよつとのハプニングが起きようとも、簡単に乗り越えられる。少し応用を加えて対応すればいいからだ。これからは、人生の様々な本番に備えて、日々、準備を重ねていきたい。

（図書名「長友佑都」）

〈講評〉

長友選手から学んだことは「前もって準備しておく重要性、心の準備も」椎間板ヘルニアの治療の対応は、手術ではなくじっくり休むことを選択した。しかも体幹を鍛える努力、離婚した母親が一生懸命働いて育ててくれた期待に報いるため努力する姿勢に惹かれていく心が見えてきます。

全体的に島山君のまじめな性格が流れているところからスポーツに挑戦しているからこそ書ける文だと嬉しく思いました。

しあわせなハッピー

盛岡市立杜陵小学校 二年

ふじ田りほ

わたしは、「わたしのうさぎハッピー」というお話を読みました。どうしてこの本をえらんだかというところ、かわいいうさぎが出ていますので、どんなお話なのかと気になったからです。

さくらちゃんという女の子は、

「うさぎをあげます。」

というお知らせを見て、子どもどうぶつ園に行き、まっ白で青い目のうさぎをえらびました。そして、そのうさぎに、ハッピーという名前をつけました。とてもいい名前だと思います。妹といっしょに、一生けんめいせわをするさくらちゃんは、本当にハッピーのことが大切なんだなと思いました。

わたしは、このお話を読んで、うさぎには、野うさぎとあなうさぎの二しゆるいあることやうさぎは、犬やねこがこわいということをはじめてしりました。

ある日、ハッピーが、にわであなをほっていると、大きな犬のなき声がありました。びっくりしたハッピーは、あわ

てであなにうずくまり、そのひょうしに足のほねをおってしまいました。じゅういさんのことを聞いて、さくらちゃん、ポロポロなきました。わたしも、さくらちゃんの気持ちを考えてかなしくなりました。さくらちゃんは、毎日ハッピーのせわをがんばりました。ハッピーは、二か月で元気になりました。

わたしが、このお話を読んで、一ばん心にのこっていることは、さくらちゃんがけがをしているハッピーにたくさん話しかけたり、はげましたりしているところですね。じゅういさんが、とてもほめてくれました。きっと、ハッピーは、さくらちゃんにかつてもらつて、しあわせだらうなと思います。

わたしも、さくらちゃんのように、心やさしい女の子になりたいと思いました。

（図書名「わたしのうさぎハッピー」）

〈講評〉

莉穂さんが、興味をもってこの本の読んだことが、よく伝わってきました。読みながら、いい名前をつけたなあど喜んだり、うさぎについて詳しくなったり、ハッピーのけがで悲しくなったり。本の中のさくらちゃんと同じ気持ちになって読むことができたんですね。莉穂さんの想像力がすばらしいなあと思います。そんな莉穂さんですから、きっとハッピーとさくらちゃんのように、誰かをハッピーにする優しい女の子になれますよ。

努力をすれば何でも叶う

宮古市立山口小学校 三年

小野寺 彩 仁

ほくは、努力をしたくない時がある。それは、水泳の教室で休みなく泳いでいる時だ。好きな泳ぎもあるけど、苦手な泳ぎを何回もやると、つかれて、心の中で

（もう、むりー。）

となってしまう。でも主人公のノアは、あきらめないでがんばっているのがえらいと思う。

このお話は、ノアたちのチームがチャンピオンズ・リーグでゆう勝したお話だ。

心のこったところは、ノアたちがどんなにつかれていますも本気でがんばっているところ。ほくは、へとへとになつたら、もうやる気が出なくて、歩いてしまう。ドクロという強てきな相手がいても、立ち向かっていてすごい。ほくだつたら、かなわないからただ走っているだけで、近くにいてもちよつとしかうばおうとする気がなくなってしまう。

し合を見て、ゆう勝のチームの中でとくにすごかった人が、キャンプに行ける。ほくだつたら、ぜったい行きたいから、たくさん練習する。マッティは前に、良い所を見せられなかったから、次は良い所を見せたいから、気持ちを落ち着かせていると思う。ノアはドクロに心の中で、

（前は同点だったからぜったい勝つ!!）と、言っていると思う。ノアが「運がよかっただけよ。さあ。こつちの実力を見せるぞ。」

と言ってたけど、ほくは

「油だんしちやだめたよ。」

と言う。たたかっている時に、フクロウにあざができて、ディフェンスのはたらきを見せて、えらい。ほくは、ケガをしてもやるけど、ケガをしているからがんばれない。ハーデイが、

「ふたりとも、本当にマッティがおれたちをうらぎると思っっているのか？おれたちはずつと前から親友だろ。」

と言つて、ほくはやつぱり友だちなのだと思う。

PKをする人を決める時、ヨハネスがよばれた。でもヨハネスは、「ほくの代わりに、マッティに付けてもらつていいですか、かんとく。今日はほく、あんまり自信がないんです。」

と言つた。ほくは自信がなくても、がんばる。でも、ヨハネスはマッティにPKをゆずつた。これはやさしさだったのか。

ほくはぜつたいにできない。だから、ヨハネスの心はすばらしいと思う。

ほくもノアやハーデイみたいになりたい。

この本を読んで、最後まで何があつても、がんばる事とあきらめない事を学んだ。四人がチームになって、団けつしてすごい。

これからも、学級のみんなど心をつにしてやりたい。落ちこんでいる人には、なくさめたり、アドバイスもしたり、していきたいです。

〔図書名〕「ピッチの王様」

〈講評〉

彩仁さんは、登場人物とたくさん会話をしていますね。そして、自分だつたらどう話そうか、どう行動しようか、と、考えながら読み進めていて、本の読み方をよく知っているのだな、と感心しました。

彩仁さんは自分のことを「あきらめやすい」と分析していましたね。それが、本を読むことを通して、「あきらめないことを学んだ。」と書いているように、一つの変化が生まれました。すてきな一冊に出会いましたね。

大きな絵の中の小さな点

滝沢市立滝沢小学校 五年

前川 岳登

「ぼくたちは、スーラの絵にかかれた緑のしげ生にひそんでいる、オレンジ色の小さな点みたいだ。意識してさがさないかぎり、気づきもしない小さな点。」という主人公ジョージの言葉がある。インターネットで調べてみたら、ジョルジュ・スーラというフランス人の画家が、実際に、線を使わずに点の集まりで絵を描く、点描という方法で絵を描いていたことが分かった。

ぼくも、スーラの絵の中の小さな点の一つになる想像をしてみた。家族や友だちもみんな、小さな点で、全体を見ると大きな絵になるという想像だ。一人一人は喜ぶあい楽のある人間なのに、絵の一部になってしまい、何の感情も持たないただの点になってしまったら、ぼくたちは、いてもいなくても分らない、取るに足らないそんなになってしまふような気がした。

ジョージは、毎日を、ぼくと同じような気持ちで過ごしていたのかも知れない。お母さんが入院していることや、学校でいじめられている現実を頭の中から消して、自分の気持ちをこまかして、何も感じないただの点になって、悲しみやつらい事を自分とは関係のない事のようにしていれば、その時は楽かもしれない。悲しい事やつらい事に直面している自分を認めるのは勇気のいることだけど、ごまかさずに向き合ったから、ジョージは学校でのいじめを解決することができたし、セイファーはスパイをしていると言ったのはウソだと告白して、少しづつこわさをこく服できるようになった。二人とも、自分の心と向き合ったからこそ、家族や友だちのアドバイス

を素直に聞くことができるようになったと思う。こういう時に力になってくれるのは、家族や友だちだと思う。

ジョージのお父さんが言うように、人生は、いまの連続だ。だから、いまを大切にすることで自分を大切にできる気がする。

ぼくの人生を絵にたとえろといまは点だ。点の集まりが一まいの絵になるように、いまが集まってぼくの人生が作られていくなら、今、このしゅん間も無だにはできない大切な時間だと感じる。だから、意識してさがさないかぎり気づきもしない小さな点なんてないと思う。自分自身を大切に生きていければ、全部が絵を完成させるための大切な点になる。

楽しいだけの人生なんか無い。つらい事や弱い心も自分の人生の一部だと受け入れて、より良い解決をしようと努力することで心がきたえられ、自分を大切にできると思う。

ぼくも、いまを大切に、なくてはならない点を積み重ねて、いつか、大きな絵を完成させたい。

（図書名「ウソつきとスパイ」）

〈講評〉

インターネットで調べる前川君 さすが高学年になるとすごいね。私も調べたいことがあるとインターネットで検索して調べます。疑問に思ったら調べる習慣をつけることはとても大事な心構えです。今後の人格を形成する上で大きな役割を果たすでしょう。

お母さんが入院していること、学校でいじめられている現実 悲しいこと、つらいことに直面している現実、確かな観点です。

人生を一枚の絵に例えると今が点 なるほど点の集まりが人生 とてもいい例えです。

## 審査を終えて

第六十四回冬休み良書読書感想文コンクールは四十九校、百七十八名の児童からの応募がありました。昨年冬に比べると学校数が十一校増加しており、県内各地の児童が読書に取り組み、コンクールに応募してくれたことに、審査員一同大変喜んでいきます。

また、読み応えのある作品が多く寄せられた学年があり、審査が大いに盛り上がりました。一人一人の感性や豊かな表現力に感心させられた審査となりました。

### 【低学年】

一、二年生は、お話の世界に入り込みワクワクドキドキしながら、読書を楽しんでいる様子が伝わってきました。その中でも、自分の思いを自分らしい言葉で書いている作品が光っていました。これからも、低学年らしい感性を大事にしてほしいと思います。

推薦図書の中には、震災について書かれた本がありました。内容が少し難しかったかもしれませんが、この本について家族で話し合ったり、家族と共に思いを深めたりしたことが伝わってくる感想文がたくさんありました。一冊の本が家族の対話のきっかけになっていることを嬉しく思いました。

### 【中学年】

三、四年生は、登場人物の行動や考えを自分に引き寄せて読み、感想へとつなげた作品が目立ちました。例えば、「かあちゃん取扱説明書」の感想文では、自分の家族について見つめ直し、新たな気付きが生まれたり、絆を深めたりする様子が書かれていました。一人一人の感じ方には違いがあり、個性豊かな感想文となっていました。

また、主題とまとめの文、さらに題名を一致させるなど、文章構成を工夫した作品から、思いが強く伝わってきました。

### 【高学年】

五、六年生では、表面的な読みにとどまらず、本を深く読み込んだ感想文から、読書の感動が伝わってきました。心に残った部分を何度も読み返し、感想文を書き上げる過程の中で、自分の思いを深めていったのだろうと想像できます。

自分にぴったりの本と出会うと、思いも次々と湧き出してくるようです。一冊の本との出会いをきっかけに、自分自身を見つめたり、これからの生き方への思いを深めたりすることは素晴らしいと改めて感じました。

### 【問題点】

読み手に自分の思いを伝えるためには、書く前に構想を練るだけでなく、書いた文章を読み返し、間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする必要があります。これを「推敲」と言います。今回のコンクールでは、特に次のような点について推敲の必要性を感じました。

- ・ 書いている内容のまとめりごとの改行になっているか。
  - ・ かぎ（「」）の使い方は正しいか。
  - ・ 誤字、脱字はないか。
  - ・ 感想を述べるといふ目的に応じた表現になっているか。
- また、コンクールの応募に当たった課題は、規定を守ることで規定外であれば賞に選ぶことは出来ません。
- 今回、大変惜しい作品があり、非常に残念でした。
- コンクールによって規定が違いますので、応募要項をよく読み、よく確かめた上で応募していただきたいと思えます。
- 今回は夏休みのコンクールとなります。それぞれの思いにあふれた素敵な感想文との出会いを楽しみにしています。